



Intraoperative flow cytometry enables the differentiation of primary central nervous system lymphoma from glioblastoma

著者名	郡山 峻一
発行年	2019-03-25
URL	http://hdl.handle.net/10470/00032429

様式 (6)

学 位 審 査

学 位 番 号	甲 第 697 号	氏 名	郡山 峻一
審 査 委 員 会	主 査 教 授	村垣 善浩	
論文審査の要旨 (400 字以内)			
<p>頭蓋内悪性リンパ腫(PCNSL)と膠芽腫(GBM)は、様々な術前検査でも鑑別が困難な症例が多い。一方、PCNSLでは摘出を中止、GBMは可及的摘出と方針が変わるため、術中迅速診断が重要である。本研究では術中フローサイトメトリー(iFC)の術中鑑別に関する有用性を検討した。2010年からのPCNSL(28例)とGBM(222例)のiFCの結果を検討した。Aneuploidyを認めた症例はPCNSLで2症例(7.14%)、GBMで121症例(54.5%)と明らかにGBMで多い結果となった。G0/G1 peakを超える細胞集団の割合(MI値)及びS期の評価では、MI値はGBMで有意に高く($p=0.0004$)、S期はPCNSLで有意に高いことが分かった($p<0.0001$)。以上により、本研究は、iFCを用いたAneuploidyおよびS期の評価によって両者を迅速に鑑別可能であること、そして術中診断精度を上げる事が可能であることを示唆した。</p>			